

# 高学年実践例

主題名 「共に生きるとは」(自然愛護)  
教材名 「金色の足あと」(P.52~P.56)」

## 道徳的価値について

- 人間は生活を豊かにすることを優先し、十分な思慮や節度を欠いて自然と接してきたこと、人間も自然の中で生かされていることを自分の体験を基に考えるなど謙虚に自然に学ぶ姿勢が大切である。
- 持続可能な社会の実現が求められている中、人間と自然や動植物との共存の在り方を積極的に考え、自分にできる範囲で自然環境を大切にしていく態度は、特に身につけなければならない。

## 児童について

- 国語や社会、理科、総合的な学習の時間等で自然の仕組みについての理解が深まり、自然環境に関わる課題についても理解できるようになってきている。
- 自然環境を保護するとともに、自主的、積極的に環境を保全することについて、自分たちができることは何かを考えることができてきている。

## 教材について

キツネたちが雪の中で気絶した正太郎を助けようとする行動から、互いを思いやり、人間と自然や動植物との垣根を越えた共生の意味について、考えさせることができる。

## ねらい

自然や動植物の力強さや素晴らしさについて感じ取り、共に生きることの大切さを考え、行動しようとする態度を育てる。

## 指導にあたって

- 国語「大造じいさんとガン」の事前学習と関連させ、椋鳩十作品を夏休みの課題図書として、感想カードに記入させる。
- 物語の内容を理解した上で、本時に臨むことができるように「朝の読書」や「読書の時間」などで読み聞かせを続ける。
- 自然や動植物の力強さや素晴らしさについて感じさせるために、身近な始良市内の自然や動植物の画像や動画を用いる。

## 板書

自然を大切にしたい。  
互いに支え合いたい。  
共に生きていきたい。

子ギツネを助けたい。

子ギツネをにがしてやりたい。

正太郎

金色の足あと

みんなが大切にしたいと思う自然と、どうかかわるとよいだろう。

重富海岸  
。蒲生の大きくす  
。龍門滝

すい(大切にしたい)迫力があつた

キツネの家族も仲良くしてほしい。  
親ギツネの努力が報われてほしい。  
親ギツネが子を愛つ愛情に感動した。  
人間もキツネも大切な命だから。

子ギツネを助けることができてよかった。  
勝手なことをして申し訳ない。  
親子がそろそろうれし。  
本林で家族仲良く暮らすに暮らしてね。  
互いに生きていこう。

恩返しをしたい。

助けてくれてありがとう。

## 実践記録

	主な学習活動と児童の反応	指導上の留意点
導入	1 自然の力強さや素晴らしさを感じた写真を見て、自然について話し合う。 2 本時の学習問題をつかむ。 みんなが大切にしたいと思う自然と、どうかかわるとよいだろう。	○ 実態調査から、自然や動植物の力強さや素晴らしさに触れた経験場面を写真で掲示する。 ○ 児童の自然を大切にすることにかかわる捉えを明確にさせながらめあてを立てるようにする。
展開	3 資料「金色の足あと」を読み、キツネに対する正太郎の気持ちについて考える。 (1) 子ギツネを逃がしてやろうと思った時の正太郎の心情について考える。 ・ キツネたちの反応が見たい。 ・ 動物でも家族で仲良くしてほしい。 ・ 親ギツネの努力が報われてほしい。 ・ 親ギツネが子を思う愛情に感動した。 ・ 人間もキツネも大切な命だから。 (2) 森の奥へと続く金色の足あとを見ていた時の正太郎の心情について考える。 ・ 助けてくれてありがとう。 ・ 勝手なことをして申し訳ない。 ・ 親子がそろってうれしいな。 ・ 森で家族仲良く幸せに暮らしてね。 ・ これからも互いに生きていこう。	○ 事前に行った読み聞かせを振り返ることで、正太郎とキツネたちのかかわりをおさえながら、あらすじや場面設定の確認をする。 ○ 正太郎が子ギツネを逃がしてやろうと思ったときの心情を考えさせることで、キツネの親が子を思う気持ちや命の大切さについて気付かせる。 ○ キツネの親子が森へ帰っていく姿を見ているときの正太郎の心情を考えさせることで、動植物の力強さや素晴らしさ、人間との共生について考えを深めさせる。 ○ 多様な意見に触れることができるようにワークシートの自分の考えを基に、グループで話し合わせる。
終末	4 学習したことを振り返り、自然とどのように関わっていくかを考える。 ・ もっと自然を身近に感じて自然と仲良く(大切に)していきたい。 ・ 自然を守り、たがいに支え合うことも大切だと思った。 5 始良市の豊かな自然や動植物の画像を視聴する。 ※ 始良市PR動画「AIRA CITY」の活用	○ 学習を通して考えたことをまとめる活動を通して、学んだ道徳的価値を自分とのかかわりの中で捉え、発展させることができるようにする。 ○ 始良市の豊かな自然や動植物の画像や動画を視聴させることで、身近な自然から大切にしたいと意欲を高めさせる。

## 実践を振り返って

### 【成果】

- ・ 事前の読み聞かせを行うことで、物語「金色の足あと」の内容を把握させることができた。
- ・ 夏休みに椋鳩十作品の課題読書を設定した。感想カードに記入したことを、国語の「大造じいさんとガン」の学習における「椋鳩十作品紹介パンフレット作成」に生かすことができた。

### 【課題】

- ・ 自然との共生についての考えを追究していくために、家族愛や生命の尊さなどの内容と関連させながら授業を展開していく必要がある。
- ・ 終末段階で、「さあ、読んでみよう (P46・47)」に紹介されている「片耳の大シカ」を活用することで、自然の厳しさや人間と動植物との共生について考えを深めさせていくこともできる。

